

貨物会社回答！「1.62箇月分、7月7日支払い」

物価高騰に疲弊する社員の生活実態を何ら顧みないもの！



経営陣には全社員の切望する声が届かないのか！

今更、「業績の反映」と言われたところで、過去最高益(2016・2017年度)時でさえ反映された実感はない！

これまでの内部留保は社員の努力で積み上げたもの！計画を見直してでも社員の生活を最優先すべき！

6月16日、2023年度「夏季手当」の回答を貨物会社から受けた。

席上本部は、「22年度決算は新型コロナ感染症が「5類」移行してももの未だ影響が続く下で、営業収益は3年連続増収となつても、それ以上に営業費用が増加したため、結果として経常損失を計上している。」の間、自然災害への対応や「コロナ感染症の拡大、物価高騰が家計を直撃する中でも、収入改善に向けて努力を続けてきた社員に何ら報いることなく、会社経営を最優先する姿勢は社員に責任転嫁するものでしかない」として、①「新型コロナウィルス」による需要低迷や雪害や地震など自然災害を理由とした、低額回答ありきの全く誠意の見られないものでしかない。②昨年度決算は、「コロナ禍にあつても前年度の収益を上回る下で、社員と家族の厳しい生活実態をまったく顧みないものでしかない。③新型コロナウィルス感染の危険にさらされながらも「指定公共機関」の使命として安全・安定輸送に努力する社員感情を逆撫でするものでしかない。④新しい人事制度で会社が繰返し説明した「生き生きとやりがいのある制度」との主旨を自ら否定する回答である。⑤経営に影響を与える数々の根幹問題を先送りし、社員犠牲の経営を続けている経営陣の責任は重大である。と嚴重に抗議を行った。

これに対し、会社は、「貴組合の指摘は受け止めるが、会社として最終判断した中身であり、最終回答である」との見解に終始した。

最後に本部は、「本日の夏季手当の低額回答は、社員と家族の生活実態を全く無視した一方的な姿勢であり、到底認められるものではなく極めて不満である」と重ねて抗議し、取り扱いは「持ち帰り」とした。

経営陣は社員犠牲の姿勢を改め、 今こそ社員へ還元すべきである！



抗議！経営課題を前面とする低額回答に抗議！
社員の生活優先の夏季手当を！

「低額回答」への抗議と要請行動
※6月23日(金)正午まで